森鷗外全集
第十卷

定本

廣津柳浪作品集

上卷

定本　廣津柳浪作品集　上巻

限定版　二百五十部

昭和五十七年十二月二十五日発行

著　者　廣　津　柳　浪

発行者　梶　野　博　文

印　刷　早稲田大学印刷所

発行所　冬　夏　書　房

広島市西区観音町十六―八

郵便番号　七三三

電話（二九四）六八〇〇

振替広島　一七二九三

目次

女子参政　蜃中樓　一
殘菊　一六一
花の命　一九四
おち椿　二〇四
小舟嵐　二六〇
變目傳　三三一
黒蜴蜓　三八五
狂言娘　四〇四
龜さん　四二八
今戸心中　四五六

河内屋(かはちや) 五〇一
信濃屋(しなのや) 五六八
淺瀬の波 五八九
非國民 六二七
七騎落 六六〇
畜生腹 六九三
重づま(かさね) 七一一

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

女子参政

蜃中楼

序

蜃中楼とは蜃が吐出した氣の中に玲瓏たる楼閣が層々壘々巍乎として出現せるを申せしものなるは、何人も御存の事にて、彼れ蜃何等の幻術ありてかゝる手品を遣ふか、如何も不思議だ虚説だらうと或人に質せし所、イヤ一概にないとは云へぬ、理外の理と申て隨分奇幻な事もあるものなりとの説法に、成程と又或人に尋て見ると、そんな馬鹿な事があるものか、それは海天の水蒸氣に陸地の楼閣が映寫つたので森羅萬象どんな事物でも理屈に合ぬと云ふ事はない、理外の理が聞て呆れると一本遣込められ、成程之も御尤なり、扨何方に理屈が有のか無のか薩張理由が譯ず考へて見もわからないから如此事は如何でもよいと有耶無耶にしてうつちやつて仕つた。此小説も之と一般で如此出來事が出來様が出來まいが有が無らうが、女子に参政の權が有と云ば無と云ひ、なんといへばかんと云。作者の意匠も有耶無耶で有から、寓意も有耶無耶の中に有でもよし無でもよし。標題に僞なし。うやむやと筆を擱く。

柳浪子

第一回の上

汽笛長鳴。一道の黒煙を殘して。新橋を發しぬる列車は。早くも品川の停車場に達しぬ。驛丁品川引品川引中等室よりは一人の老人出で去りしのみ。ヒラリ〳〵と乗込むもの二三人。そが中に年は十八九でもあらふか。よも廿年には上るまじとぞ見ゆる洋裝の美人あり。色は「クツキリ」と白き中に。何となう淡紅を帶びたる。桃の花を吉野紙にて。二重程包みたらん様なり。綠の烏髪は其色艶々しく。房々と束ねたるを。細くして美しき頸の傍りにわがねつ。眉は少しく濃き方にて。

其間ひ割合に狹きは怜悧の質をあらはし。半ば笑ひし薔薇の様なる唇は。愛嬌づきたる中に。キット、リキミありて。女子には有り難き決斷に富むめり。大理石にて巧を凝らせしにやと見ゆる。小さくして高き鼻に。跨り懸れる秋水の眼は。細き方なれども「キレ」長く。突然開きて見る時には。隨分太うなりて微妙の威容も含めり。衣服のとりなりは都雅艶麗にて。いかほど踏倒した處が。貴女の價には充分の品格。先づ車中の人々に會釋し。窓の傍りまでも送り來れる。四五人の貴女等と握手接吻別意を表しける内に。汽車はコット〳〵動き初めぬ。美人は尚も窓外に顔を出し……半身を出し……ハンケチを振りしが。汽笛と共に停車場は見えずなりしや。軈て窓を離れ……袴をたゞし……徐かに座に就き。乘合の人々を。ズラリツと瞥見し。手提カバンの口を開きて。何にやあらん小形の洋書を取り出て。眼と共に膝に置きつゝ。默讀すめり。乘合の人々は十二三名もあるべし。官吏あり紳士あり。書生あり商人あり。服裝も雜多にて。なか〳〵一々形容し得べくもあらず。其廿餘の眼は盡く件の美人に注ぎて離れず。おの〳〵種々の想像をいだき。さても美麗なる婦人も有ものかな。容顔とりなりの優にやさしき。某殿の姫御前にてや在す。さるにても供人をも召連れず。中等とは人品に似合はざるぞ。さては貴女にてはあらざりき。歌妓の輩にや。さはれ送り來りし婦人の中には。某大臣の夫人某侯の姫上もおはしましぬ。さればこそ平人にては在すまじ。讀み玉へるは如何

なる書にやあらん。聖書かさては小説か。受け玉へる教育もさぞあらん。隣りに倚けたるは何者ぞ。無下に賤しき人品なるに。彼の細腰と相摩し。玉腕と相接しぬるぞ。如何なる好日月の下には生れぬる。車中の艶福は彼者に止めけるよ。アレ眦を斜になし。玉の顔を。溢るゝ靨を。ソレ流涎が……危險りし無禮者めがあはれ。乃公と席を代へなば。……イヤ此方より移り行かんか。扨も〳〵とうつゝになりし。書生の手はゆるみて。思ず取り落せし新聞紙を。ハツト慌てゝ取上げ。有繋に羞かしくや。顔色鳶色に變じ目に觸る所を見當もつけず。二三行ムク〳〵と讀み行き。猿の如き眼を斜にして再び美人に注ぎ俄に一轉して相對せる紳士に向ひ

（書生）イヤ先生。今日の新聞を御覽になりましたか。例の女子參政黨の運動が非常に活潑になりましたな（紳士）ハハア。未だ見ませんが。どんな事を記載て居ますな（書生）マア。御覽なさい。此處の所を……ソレ其處にあります（紳士）成ツハハア。女子參政黨の運動……

と十行ばかりサラ〳〵と讀み去り

（紳士）なか〳〵活潑になりましたな。昨日の集會で大阪の會議へ臨まする。女學士の投票を施行したと見えるが。何人が其撰に中りましたな……エー。山村敏子女史が最多數の投票を得て其撰に當られ直ちに明日發程せらるゝ由……フー。山村敏子と云ふのは……（書生）非常の美人で。年こそ若いが。學識もあり經驗もある女丈夫と云ふ事です

（紳士）左様〳〵。いつも厚生館や鷗遊館の演説會に出席する女學士ですな（書生）さうです。其演舌筆記を讀みましたが。なか〳〵壯快な議論を吐きますぞ。女子參政黨の鏘々たる女學士丈けあるです

此時廿餘の眼は再び彼の美人に集りしが。美人は少しも知らざるものゝ如く。尚ほも膝なる洋書を讀みて居れり

第一回の中

（紳士）其演説で思ひ出すが。エヽト左様さモウ十四五年にもなるが。國會開設第五紀念會の會場で。其頃の総理大臣の夫人が。女子參政權と云ふ題を掲げて。滔々懸河の弁を揮つて。女子と雖ども參政權なき理由はあるまい。正

理公道によりて妾等は參政の權を有するものなりと說き起し。非常なる熱心を以て其局を結ばふと。一層聲を張り上げ。嗚呼同胞姉妹よ。姉妹は姉妹自身の護身の寶玉を暴戾なる。惡漢に奪ひ去られて。却つて惡漢其ものゝ爲めに。苦楚辛痛の境界に沈んで居るのを。口惜いとは思はれぬか。殘念とは考へられぬか。妾は思ふて玆に至りますれば。精神激昂して胸も張り裂くばかりであります。嗚呼同胞姉妹よ。姉妹は妾等と共に協力して。姉妹固有の寶玉を。彼の惡漢の手裏より奪ひ返さふとは思はれぬかと說き了つて。拍手喝采の中に昏倒し。大騷動を仕た事があつたが。婦人の演說で以て。あの位慷慨悲壯なのは我輩曾つて聽いた事がないて。それから。女子の參政論が非常の勢力を得たので。漸く二三年の經過で倒れる事は倒れたが。イヤハヤ一時は社會の秩序も爲めに紊亂して仕舞ふかと思つた位で……（書生）ヘヘエ。そりやア大變でしたな。僕なんざア漸く小學校へ通ふ位の時だから。殆んど記臆しないが。僕の母なんぞも。其事から親父と喧譁をしたさうで……ハヽハヽ。イヤなか〳〵大變でしたらふ（紳士）イヤモウ。大變の何のと云つて。一通りの騷ぎではなかつた。離婚の訴訟を起すやら。決鬪を挑むやら。中にも甚だしかつたのは。某大臣の令孃が今少しで。結婚を仕樣と云ふ。運びになつて居た。某博士（卽ち其情郎）を狙擊したなぞはまるで。狂氣の沙汰さ。處に當時の內閣が。何の利する處があつた

か。女子参政案を議院に提出したからたまらない。狂擾し切つて居た人心は。また一層の激昂を加へて。社會は實に浮雲の如しさ（書生）實に非常ですな。裏娜娉婷。綺羅にだも堪へざる夫人令嬢が。優艶なる固有の美德を捨てゝ。劣等なる職工社會にさへ希れに見掛くる位の。血まぶれ騒ぎを初めるなどは。まるで血の道の所爲としか思はれませんな（紳士）左様。血の道……血の道に相違ない。評し得て妙だ。血の道より恐可きものはないて。アハアハアハ紳士の隣に在りし六十才許りの老紳士が。いかにも嘆息に勝へないと云ふ様子で

（老紳士）アアー。此様なる急激不法の議論が。頻に成邦に流行するは。實に奇怪千万ではあるが。これと云ふのも。此三十有餘年の間に輕躁浮誇の風が。段々行はるゝ一証であつて……アーア。嘆息の外なしです。（書生）イヤ老先生。先生の御心配なさる程でもありますまい。既に英國に於ても一昨年でしたか。女子の投票が「威エストミニスター」に於て擧行され。昨年は佛國の代議院でも参政案を可決しましたが。將來の結果は如何でありませうか。今日から豫想する事は出來ないにしろ。それ程の妨害を。社會の文明に與へる事もありますまい（紳士）左様〳〵。婦人の教育と云ひ。智識と云ひ。其頃に比れば非常に進歩して居るから。以前程の騒ぎ程には過激な出來事も……新聞記者らしき男が傍より突然と

（記者）イヤさうでありませんて。成程表面から觀察したらば。君の御論の様に。智識教育が充分進歩したに相違ないが。それと共に進んだのは何でありませう。即ち恐るべき驕慢心であります、ア、優美なる婦德は地を拂つて唯々傲然男子を凌辱しやうと云ふ。惡念の增長せる今日の婦女子がどうして。男子と調和親愛する事が出來ませうか實に國家の爲めに憂ふべき事ではありませんか（老紳士）然り〳〵實に名論。德行ある婦女には寶玉よりは光澤ありと「素ロモン」の云はれたのは。其處の事じや。婦女子が充分に男子の愛敬を得やうと思へば。先づ婦德を高めるの專一じやてそれを。何ぞや今日の婦女子は。妾等は唯女なるによりて尊重敬愛さるべきものだと心得て居るのは。實に誤謬の甚だしきものでは御座らぬか（記者）老先生。御尤

です。萬一これ等の婦女子に。怪我にも參政權を與へる樣な事があつたら。それこそ大變。再び二十年度の血の道騷を。今日に見る事になりませう。

年の頃五十ばかりの商人

（商人）へへヱ。そんなに血の道が流行りませうか。能い事を伺ひました。早速賣藥やを開店しまして。清婦湯や實母散の賣廣めでも致しませうハ、、、、（皆々）ハハ、、、、、ハハ、、、、

と哄然一笑して。又々眼は美人の身上に集りぬ

第一回の下

此時美人は少しく耳を傾けしやに見えしが。商人の辭の切れしを好機とや思ひけん。突然座を離れて突立ちぬ。スハ美人の怒りを招きしよ。如何なる議論をや云ひ出でぬらんと。廿餘の視線の臻りし美人の秋水は。怒りを含みて見ゆるものから。俄に莞爾と片頰に笑みて。徐かに人々に會釋をなし。今や嫣たる桃の唇を開きて。雛鶯の音を發せんとする機會に。

先刻より隅の方に頭を低れつゝ。人々の話說を聽き居たる官員風の年は四十左右の男が出拔けに美人に向ひて

（官員）山村のお孃さん……敏子さん……お孃さん

と呼び掛くるにぞ。美人は將に開かんとせし唇を屹度結びて其人を見るに。父某と同鄉の人にて。今は總理大臣の祕書官

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

なる谷川登なりければ。丁寧に握手の禮を與へて

（敏子）オヤ。谷川さんで入らッしやいましたの妾しは少しも存じませんでしたよ。誠に失禮を致しましたネエ（谷川）イエ。如何致して。私こそ……大森から乘車致した時に能く似たお人とは思ッたが。書籍を御覽なすつて。お顏が能く識別んので。突然お尋も致し惡く。態と扣へ居たのですが。何方へお出掛です。殊にお一人で（敏子）ハイ。アノ急に思立ちましてネエ。大坂へ參るので御在ますよ（谷川）ヘエ。大坂へ。それは一向に存じませんで。御親類へ御逗留にでもお出なさるので（敏子）ハイ。何れ櫻田にも尋ねます積りではありますが。今度は氣樂な旅行ではありませず。參政黨の黨用を帶びて參るのですから（谷川）ハハア。それでは例の參政黨一件で。大坂の大集會に御臨席なさるので。（敏子）時日が大變に切迫して居ますので。昨日急に下坂する事に決しましたのですよ。如何せ妾なんぞが參ッたつて。仕方がありアしませんけども。何でも妾に行れと黨員がお勸告なさいますし。御存の通のお先き走りだもんですから。オホ、、、、、（谷川）イヤ結構です智識もあり名望もある貴婦人に富んでお出の參政黨から。未だお年若の貴孃を推撰して。東京黨員の代理とせられたのは。固より夫丈けの學識德行ある貴孃なればこそ。此重大の責任ある名譽を得られたので。中々容易な事ではありませぬ。過刻から同車の諸君も色々評論があッた樣でしたが。中々重大な問題ですから。小心と勇氣とを併用されて。年來の期望をお達しなさるを希望します。イヤ何も箇も御承知の貴孃に。ケ樣な事を申すのは。ルーサーに說法とやらハ、ハ、ハ、今にお子さんの樣な心持が致すのでハ、ハ、ハ、

敏子も微しく笑を含みて

（敏子）イエ。如何致しまして。御存の通り學問もありませず。經驗にも乏しい。妾の事で御在ますからどうせ黨員の期望通りに滿足を與へるのは覺束なう御在ますが。一旦黨員の依賴を受けて見ますと。力の及びます限りは。例へ性命を擲ちましても。主義の爲めに犧牲となりましても。決して厭ひません決心で御在ますよ。ホホ、、此樣事を申して。生意氣な女だと。御思召も羞しう御在ますネエ。

谷川ハ二ツ三ツ頭をふり。アヽ壯烈なものだ。と云はぬばかりの面色にて

（谷川）如何して。如何して生意氣な事がありませうか。夫程の御決心がなければ。イヤ御決心が必要であるので。我輩も最も貴嬢に望む所ですが。唯々切望するのは。避けられる丈けは。粗暴な手段をお避けなすツて。何處迄も平和の手段に出でらるゝのを……先年一時は天下を傾動する程の。勢力を得ました平權黨も。激昂のあまりに社會の秩序を紊亂する樣な暴擧を企てた曉。終に輿望を失つて倒れた事もありますから（敏子）ハイ。御注意は難有う御在ます。お禮を申しますが。我參政黨員には。そんな粗暴な姉妹は決して無い積りで御在ますよ。清婦湯の必要もありますまいと存じますよ。例へ血の道から起ツた事に致しましても。此血の道は何物が起させたのでありませうか。人體否社會の如何なる不調和から起ツたのでありませうか。嗚呼妾等同胞姉妹が。日夜苦楚辛痛に沈みつゝある血の道は何等の神藥を用ひて全快致しませうか。清婦湯でありませうか。實母散でありませうか否々是等の草根木皮ではありません。正理公道によりて調劑しました。參政權と云ふ一粒の万金丹であります嗚呼諸君よ諸君は妾等が……（驛夫）

鶴見引鶴見引

山村の敏子は。過刻より此美人が彼の女學士でありしか叉手も〳〵と敏子の顏をのみ見詰めたりし同車の人々に對かひ。今や滿腔の熱血を注ぎて。先きの評論に駁擊を試みんとせし演說も。驛夫の爲めに腰を折られければ。遺憾ながらも坐にかへり。再び運轉を初むるを待ちて。件の演說を續がんとせしに谷川は之を止めて

（谷川）何れ東海鐵道でせうから神奈川停車場でお別離ですな……

と「紙入」より一葉の名刺を取出し

（谷川）現に大坂改進黨員で久松幹雄と云ふ男は。隨分學力もあり思想もあり。中々有爲の人物で何かに付けて御相談相手に爲らふと思ひますから。私よりも電信にて御紹介致して置ませうが。此名刺をお持參なすつて御閑暇の折にお尋ねなさる樣に致したう御在ますな。（敏子）ハイ。大坂へ行りましたら早速お訪問致しませう。兼々お名は伺つ

て居ましても。お目に懸つた事はありませんが。貴公の御知己では猶更幸ひで御在ますから……それでは御名刺は頂戴致しますよ。

と名刺を請ひ受け。手に携へし洋書に狭みて。カバンに納めける折柄。汽車は早くも神奈川の停車場に着しぬ

第二回の上

大阪の北濱と中の島公園とを接續せる難波橋の鐵橋を。南より北へ渡りつゝある一箇の婦人。年は二十の上を一ツ二ツや越えぬらん。中背にして豐肌なり。さはれ不格好と云ふ迄にはあらず。爲永時代の美人相ではなけれど。所謂當世ポチヤ丸の婀娜ッぽい方。きまり通り新月の眉秋水の目元。唯少しく上睫が重たさうにて。睡起ではなきかと見ゆれど。こゝの處が千ダラだと意を惱ます若殿原もあるべし。髪の束ね樣。衣裳のとり合せによりて察するに。これが平生のたしなみとは見えず。夜會にでも臨ふと云ふ打扮。足の運び方などは。大概な男よりも活潑さうにて。洋袴のさばきも馴たものなり。箇樣に活潑な足どり故。かの長々しき鐵橋をば。早くも渡り了りて。公園の彼方此方を見廻しつゝありしが。倏ち木の間に姿を隱しぬ……軈て紀念碑の傍より現れ出で……さし足……ぬき足共同腰掛に倚りて人待顔なる。紳士の背後に廻り出で。突然肩の邊をグット攫む。紳士は不意の攻撃に。ハット腰掛を離れ。振り返りて屹度睨みしが。婦人はさも嬉しさうなる聲音にて

（婦人）オホオホオホ。（紳士）エ、。艶子さんか吃驚した。サン〳〵人を等候して置て。嚇殺もないもんだ（艶子）ホ、ホ、。餘り憎らしいからですよ。オ、苦しい。呼吸が「ハヅムワ」。何でも先に來やうと思つて。一生懸命急いだのに。憎らしいよ（紳士）ハ、ハ、。何の事だ。先に來て待された上に。憎まれた日にやア。好い面皮だと戯れつゝも腰掛にかゝれば。艶子も同じく座を占めぬ。此紳士の容貌と其打扮をいかにと云ふに。年は二十六七なるべし。中肉中背にして色白く。眉秀で鼻筋通り。唇は朱を塗りしが如く齒は。瓢核を列べたらん樣なり「モミアゲ」の濃きと額際の鴈金とは。此男が最も得意の廉なるべく。眼は儼然

したる方にはあらねど。充分の愛嬌を含みたれば。婦人の心を動かす作用は。此處にありとぞ見ゆめる。黒のフロツク・コートに黒の絹帽子を冠りて。胸間にはゴールの鎖。粲然と輝きぬ。ポツケツトよりハンカチーフを出して。ブーント鼻汁をかみ。人中を三四度クツ〳〵と拭ひ

（紳士）今日は珍しくお歩行ですな。夜會に行くのに馬車なしも妙なものだ（艶子）そりやアさうですワ。如何して〳〵歩行ことなんざア出來やアしませんけども過刻の手紙にも云ツてあげたでせう。ソレ東京の從妹が來たもんだから（紳士）さうだつて。エヽと山村敏子さんとか云つて。東京參政黨の女學士だと。新聞紙にも出て居た。昨朝の難波タイムスにも（艶子）ハア。その敏子さんと云う從妹が……（紳士）敏子さんが來たと云ツて馬車に乘れないと云ふのも。變な譯だ（艶子）夫が斯うですよ。今晩の蹈舞に。敏子さんも招待されてお出だから。お前が案内をして遣るが能いツて。慈母さんがお云ひですのさ。否と云ふ譯にはいかないじやアありませんかネエ。敏子さんの方へは慈母から文がまゐつて。艶子が誘引にあがると。云ツてあるもんだから。それで家を出る時は。馬車で出たんですワ（紳士）フウー。その馬車は如何おしです（艶子）馬車……それはネエ。あの橋詰で下りてネエ。馬車ばかしを敏子さんの旅宿へ。迎ひにやツたんですアネ（紳士）馬車ばかり……貴嬢がお出でなくつても能いのかネ（艶子）能い事はあ

りませんわネ。だけども妾が行けば。郎君と此園で斯うやツて。お目に掛る事が出來ないから……少し脇へ廻る要用が出來まして。中の嶋の公園で。お待ち合せ申しますツて千吉（御者なるべし）へようく云ひ含めて遣りましたわ……浮田さん。妾ハ是程までに思ツて居るのに。それに郎君は……ア、氣が氣ぢやアないわ（浮田）ヱ。何が（艶子）何がツて。おとぼけだよ。ヱ、。憎らしい（浮田）アイタアイタア、痛い。譯も云はずに。憎らしいブツノは亂暴だ（艶子）亂暴でもよう御在ますよ。人には如此に氣を揉せて置て。郎君は矢ッ張今でも。松山の操さんの事で。種々苦勞をしてお出なさるからさ

艶子は思ふ所あるが如く。蝙蝠傘の石づきもて地上に。松又は操の字を。或は寫しつあるは消しつ。時々浮田の方を轉秋水に見るめり

（浮田）ヱ。操さん……ハ、ハ、ハ、何をお云ひかと思ツたら。相も變らず。松山の娘の事か。そりやアヅーツと昔の話さ。それさへ何した斯うしたと云ふではなし。唯あの娘と交際して見やうと思つた許りで……（艶子）ソレ。其様に考へて入らつしやるじやアありませんか。矢張り思ひ出すんだよ……（浮田）其處でまた憎らしいかハ、ハ、ハ、

第二回の中

（艶子）ヱ、。またあんな事を云ツて誤魔化さうと思ツて。憎く……ホ、ホ、ホ、（浮田）ヘン。以前の事を云へばお互さ。さう云う人も。久松の幹雄さんには……餘り人の事ばかりは云はれまい。去年の舞踏の間違から。仕方なしに斯う云ふ譯になつたから。慊厭ながら……（艶子）ヱ。仕方なしに……慊厭ながら……浮田さん。郎君は仕方なしに。慊厭ながらかも知りませんがネ。今更其様事を仰ッたツて。そりやア餘まり薄情ですよ。如何した心の迷だつたか……久松さんを……戀慕た事も無いぢやアありませんけども。郎君と如此譯になツてからは。彼様に頑固ばかし云ツてお出での兩親の目を偷んで。あのゝものゝと都合をする苦勞は並大抵ではありませんよ。だから早く兩親に申込んで結

婚の出來樣にして下さいましなネエ（浮田）それは我輩も御同樣で。早く結婚をするのは。最も希望する處であるが。先日もお話した通。まだ財產が……其財產が此地にないので。例へ御兩親に申込んだ處が。何處の馬の骨か。何樣身元の者か。一個の貧書生としか思はれぬ我輩に。オイソレと御承諾もあるまい（艶子）イヽエ。そりや郎君の遁辭ですよ。先日のお話に。お國へは令尊の御遺言で。それ相應の財產を。お兄いさんが預ッて居らッしやるぢやアありませんか。眞實に妾を思ッて下さるのなら。今財產を取り寄せると云ふ。必用があるのではなし。唯お兄いさんに御照會なすッて。財產の有無を證據立さへなされば宜んぢやありませんか。其上で兩親へ申込でさへ下すッたら。兩親だつてさう頑固な事ばかしを云やアしませんワネ。例へ頑固な事を云ッたにしろ。自由結婚の今日ですものを。其時は如何でもなりまさアネ。エ。浮田さん後生ですから。一日も早くさうして下さいなネエ。エ。エ

浮田は先ほどより。傍を對きて眉間に八字を寄せ。いかに答へて此攻擊を避けんかと。いろ〳〵に思案なせども。當意即妙の知惠も出ねば。却つて無造作に

（浮田）そりやアさうさ。さうすりやア譯はない。何も譯はないのさ。が少々事情があるので……（艶子）ヱ。事情……其事情とは何ですよ。先日から尋ねたッて。何時も曖昧な事ばかし云ッてヱ……浮田さん其事情とは何ですよ。早く云ッてお聞せなさいよ。（浮田）ヱヱー。ナニ何でも。ウウー其內には話さなくッても……（艶子）いやですよ浮田さん。モウ其遁辭は聞ませんよ。サア早くサア（浮田）マア。其樣に性急なくとも（艶子）いや〳〵。アヽ自烈体

ヨ（浮田）ウウー

此艶子と云へるは。難波の豪商櫻田千樹の愛女にて。母は山村の敏子が。亡母の姉なれば。敏子とは從姉妹なり。大學へこそ入らぬ。高等中學は卒業せし程にて。相應の智育をも。德育をも受けぬれば。靜淑き方にはあらねど。お轉婆の渾名を下すは無理なり。素より女兒とては艶子のみなれば。兩親の鍾愛は挿頭の花。掌中の玉も啻ならず。早や破瓜にもなりぬれば。よき婿がねを撰びてと。人にも賴み。兩親も探求ぬれど。所謂欅には長し帶には短く。此五六年を空しく過しぬ。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com